

改めておもひごと



猛暑が続き、お決まりのように合間に台風が通り過ぎていく日本。「夏ってこんななんだっつけ？」と思っっているのは私だけだろうか。

さて、唐突ではあるが私が社会人となる1990年台前半日本はバブル絶頂期であったことを記憶しておられる方も多いかと思う。

ありとあらゆる企業から送られてくるDMが、6畳の私の部屋のほぼ半分、それも高く積み上げて埋め尽くされていたのを鮮明に覚えていゝる。スネかじりだった私は、散々親に迷惑を掛けた拳句にお世辞にも「一流」とは言えない私立大学に進学し、存分に古き良き時代の学生生活をエンジョイさせて頂いた。それでも完全な売り手市場だった当時「入社試験で落ちる奴はよっぽどな奴」的な風潮があるなか、私は某メーカーの1次試験で剣もホ口ホ口に落とされ、「何が理由で？」と総務部に食って掛かったものだ(因みに答えは「大人しそだったので」との回答で、「・・・そもそも採用する気ないですよね」と受話器を置いた)。

さて、当時の初任給。確か21〜22万円だったと記憶している。そしてあれから30年近くたった今、巷では人手不足が叫ばれているが、その初任給はと言うと当時とほぼ同じ。この30年間、日本は成長しなかったのだろうか？それとも30年前の初任給水準が高すぎたのであるだろうか？

その一方で、企業の内部留保は400兆円を超えている。はてさて、どうということなのか・・・。

日銀・黒田総裁が「異次元」と言いつつお札を刷れるだけ刷って、マイナス金利を実行している。マクロというか、資本主義の大上段の話では正しいと思う。でも、それが実経済にお金が回り、そして個人に行き渡り、消費に繋がっているかと言われれば、答えは「No」としか言いようがない

たかだか、新卒社会人の給料額さえ上がっていないのだから。銀行は融資を必要としない大企業に貸し付けして体面を保ち大企業は後生大事にその現金を貯め込んでいる(内部留保と現金はイコールではないがこの際、同じぐらいの表現にします)。

なぜ、企業は給与を上げないのだろうか(その割に新卒を手厚くもてなそうとする不思議)？

そこに明確な理由があるようには思えない。

「人件費を圧縮する」「XX経費を抑える」が無気力無意味に美徳化され、勿論、無駄は無くさなければいけないが、企業にとっての大切なことつまり成長、だったり、価値の向上、だったり、社会性、だったり、本心に重要視されているのだろうか甚だ疑わしい。

良く資本を注入するファンドの方々だったりM&Aコンサルタントは「ディスカウント・キャッシュフロー」がですね・・・と、流暢に語って現金の「愚かさ」を説いているが本当に意味分かっていゝのかと疑いのまなざしになる。人権費だつて企業活動における重要な投資のほゞで、当然リターンを求めると、リターンに応じた昇給だつたり賞与を渡すのが当たり前資本主義だと思ふ。そうか、ここまで書いて分かった。

人件費をコストと考えているから、初任給が30年も上がらないのだ！言い方は乱暴だが、たかだか、新卒の給与水準すら上げられない人達に、会社に貢献してくれる人材を、費用、でしか捉えられない人達に、経済を活性化させられるとは思えない。刷ったお金を回そうじゃないか。出した分(投資)は回りまわって帰ってくるから。人材だつて立派な投資のほゞ。なぜ、それをせずに現金を貯め込むのか？「金は天下の回りモノ」、昔の人の方が実は経済を理解していたのではな

全地連「技術フォーラム2018」

香川県高松市で開催されました、全地連「技術フォーラム2018」に東昇商事株式会社様が参加されました。このフォーラムは、全国地質調査業協会連合会が実施しており、全国から地質調査会社、国交省、地盤改良会社、建設コンサルタント、基礎設計など600名以上のお客様が参加されておりました。香川県知事や高松市長の言葉から、フォーラムが開始されました。

出店ブースには、地質調査の試験機や調査方法などの出店が多い中、瞬間吸水材セルドロンブースは際立っておりました。特に、全地連の元会長や元副会長、超有名ソフト会社の社長様など経験豊富な方から多岐にわたりご質問を頂き、セルドロンの可能性について熱く語っていただきました。今まで、建築土木や造園関係で採用されることが多かったですが、地質調査の時に発生する、流動性が高いものにセルドロンが試されていくこととなります。また、建設コンサルタントの会社様から、仮設道路の設計に困っている話(室内 試験でセメント改良し7日後の強度で重機が通れるような強度を示すも、現場は7日間も待てない)があり、セルドロンが活用されていきそうです。

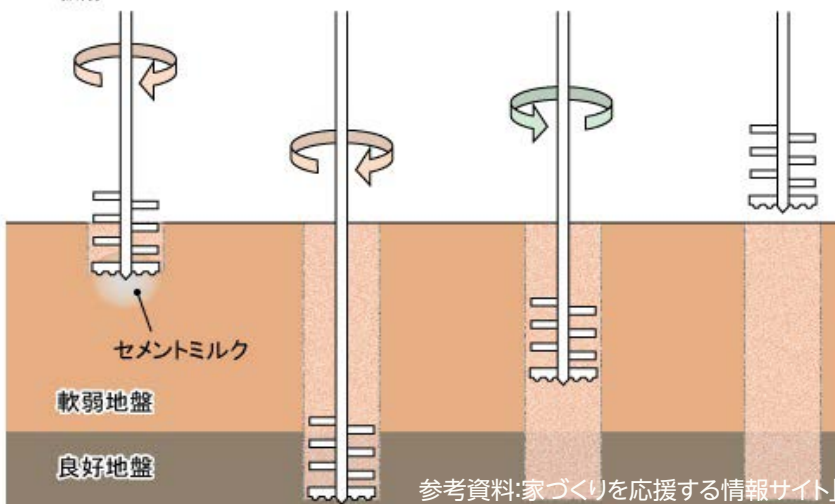


東昇商事株式会社様ありがとうございました。

～柱状改良のセメントミルク処理について～

住宅の地盤改良を行う方法に、柱状改良という工法があります。その際に発生してしまう、セメントミルクの処理にセルドロンを採用しませんか。大きい塊になる前に、セルドロンでパラパラにすることで、現場での作業効率が上がります。セルドロンは、流動性の高いものであれば、どのようなものでも活用できます。ご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

- ① 先端からセメントミルクを注入しながら掘削
- ② 設計深度まで掘削
- ③ 反転し攪拌しながら機械を引き上げる
- ④ 施工完了



柱状改良とは?

軟弱地盤が2メートル以上8メートル以下の深さの場合に用いられる方法で、土の中にコンクリートの柱を造ってしまう方法です。工事の手順は左図のようになります。

図のような工事方法でセメントミルクを土に添加しながら攪拌して、直径60センチほどのコンクリートの柱を地中に作ります。

柱状改良した柱の先端は、硬い地盤の深さまで到達していなければなりません。

しかし、柱状改良はその硬い地盤で支えるだけでなく、柱と柱の周囲の土による摩擦力も加わることで建物の荷重を支える構造になっています。

参考資料:家づくりを応援する情報サイト